



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 小池酸素工業株式会社

コード番号 6137 URL <http://www.koikeox.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 小池 哲夫

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長

(氏名) 岡崎 隆

TEL 03-3624-3111

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	19,906	1.3	307	△46.6	323	△43.1	353	103.4
24年3月期第2四半期	19,650	9.5	575	△4.9	567	12.3	173	7.7

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 335百万円 (△0.4%) 24年3月期第2四半期 337百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	8.47	—
24年3月期第2四半期	4.15	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	47,382	23,058	45.7
24年3月期	49,488	23,112	44.0

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 21,637百万円 24年3月期 21,760百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	—	—	7.00	7.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

24年3月期期末配当の内訳 普通配当 5円00銭 特別配当 2円00銭

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	△2.2	800	△38.3	850	△36.6	650	△34.0	15.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名)
、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当するものであります。詳細は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「2.サマリー情報」(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	45,229,332 株	24年3月期	45,229,332 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

25年3月期2Q	3,803,250 株	24年3月期	3,352,319 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	41,747,976 株	24年3月期2Q	41,880,659 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11
(7) 重要な後発事象	12
4. 補足情報	13
生産、受注及び販売の状況	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、欧州債務危機の長期化やアジア経済の減速などから景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

一方、わが国経済は、東日本大震災からの復旧により、景気は緩やかな回復基調にありましたが、円高・株安の継続、雇用情勢の低迷、電力問題、東アジア諸国との関係悪化による経済への影響懸念などから厳しい状況が続きました。

当社グループの主需要先である鉄鋼、造船、産業機械、建設機械などの各業界においては、東日本大震災の復興需要の遅れや国内生産から海外生産へのシフト、中国経済の低迷などの影響から生産・輸出に停滞感が見られ、低調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループは海外市場への積極的展開、中・薄板、一般市場などの新市場に向けた新技術・新製品の開発と販売力強化、生産効率の向上、原価低減や経費削減に取り組みましたが、その効果は限定的なものとなりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は199億6百万円（前年同期比1.3%増）、経常利益は3億23百万円（同43.1%減）、四半期純利益は3億53百万円（同103.4%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

機械装置

機械装置部門においては、4月に大阪で開催された2012国際ウエルディングショー（J I W S 2012）に切断と溶接のトータルサプライヤーとして高性能の各種新製品を出展しました。業界初となる円形2kWファイバーレーザー切断機、世界市場での中・薄鋼板業界を視野に入れた汎用プラズマ切断機「INTEGRAPH-GLOBAL」、閃光やヒュームなどの環境問題の解決と良質な切断面質を実現したウォータージェット切断機「KOIKEJET」などの最新技術の各種切断機とプラズマ溶接システム、ターニングローラーやポジショナーなどの各種溶接治具を展示しましたが、厳しい局面が続いたため、受注は伸び悩みました。

海外においては、円高により輸出環境の改善傾向が見られないなか、小池酸素（唐山）有限公司・コイケ코리아エンジニアリング(株)製造のNC切断機をアジア諸国へ本格的に販売を行うとともに、コイケアロンソン(株)・コイケアロンソンブラジル(株)と協業し、中南米造船業界への営業活動を本格化させ、ブラジルおよびパラグアイの造船所から大型NC切断機の大量一括受注を得ることができました。また、インドでの販売量の増大を目指し、インドマーケット向け専用自動機の投入を行いました。

生産面では、在庫削減、部品の共通化や中国を始めとする海外調達拡大など生産の効率化とコスト削減に取り組みましたが、国内外の競合メーカーとの価格競争は極めて厳しく、市場において十分な成果を得ることができませんでした。

また、開発面においては、海外子会社との協業により、国際共通コントローラー「KATANA」を搭載した国際標準機「INTEGRAPH-GLOBAL」の開発を完了させ、短納期と生産性の向上を実現させました。

しかしながら、国内需要の低迷と厳しい価格競争や新規開発製品の市場への投入のずれ込みもあり、受注環境は厳しい状態が続きました。

その結果、売上高は85億87百万円（前年同期比1.8%増）、セグメント利益は1億15百万円（同66.6%減）となりました。

高压ガス

工業用ガスにおいては、需要低迷が一段と進み、中でも自動車・建機・鉄骨業界など主要ユーザー向け酸素・窒素の販売量は落ち込みました。しかし、溶断溶接設備との一体販売強化により、新規開拓・シェアアップの取組を行うとともに、2012国際ウエルディングショーを始め、各地域で開催の展示会において、高品質溶接用混合ガス「スーパーシールド」、簡易カードル「KSマルチカードル」を中心に拡販に努めました。また、電力料金値上げを受け、製造原価高騰によるガス価格改定の取組を実施しておりますが、十分な成果をあげることができませんでした。

生産面においては、保安強化・安全確保の観点から全てのガス工場の保安査察を実施するとともに、生産コスト削減と夏季節電対策に取り組みました。

医療分野においては、院内機器主力製品である「ヨックスディスポ」（ディスポーザブル吸引器）は、積極的な営業展開を行い、ほぼ横ばいで推移したものの、在宅医療機器およびレンタル機器については、酸素濃縮器価格の競争激化により厳しい状況で推移しました。

その結果、売上高は72億51百万円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益は4億87百万円（同8.0%減）となりました。

溶接機材

溶接機材部門においては、本格的な復興需要は感じられず、溶接材料の販売量を増加させることはできませんでしたが、溶接ロボットなどの大型案件を多数受注し、溶接材料の売上減少を補うことができました。

溶接機器においては、2012国際ウエルディングショーに価格競争力のある新型溶接液晶面、多目的マグネット治具などの輸入新商材を出展し、需要の喚起による拡販を図るとともに、新商品として中国唐山開元電器製のサブマージアーク溶接機を出展し、多数の引合を得て、8月に1号機を納入することができました。また、6月からガス溶断作業の安心・安全・保安をスローガンに全ての工場に安全器の完全設置を目的とした「アポロご安全にキャンペーン」を開始し、小型展示車によりユーザー巡回、安全チェックを実施し、逆火防止器の拡販につなげるとともに、工業用扇風機、スポットクーラーなどの季節商品の拡販を図り成果をあげることができました。

その結果、売上高は35億81百万円（前年同期比13.5%増）、セグメント利益は60百万円（同2.3%増）となりました。

その他

ガス機器においては、国内半導体メーカーが低迷しているなか、液晶ディスプレイメーカー向けに新型排ガス処理装置を開発し、販売活動を促進しました。中国においては、5月に上海で開催された国際太陽光展示会に出展、台湾では8月に排ガス処理装置の発表会に参加して受注促進を図りましたが、欧州経済の危機により設備投資の抑制が継続したため、実績には結びつきませんでした。ヘリウム液化機においては、大学へ1台納入しました。

その結果、売上高は4億85百万円（前年同期比5.5%増）、セグメント損失は4百万円（前年同期はセグメント利益99百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報**①資産、負債及び純資産の状況**

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、473億82百万円であり、前連結会計年度末に比べ21億5百万円減少しました。

流動資産合計は288億13百万円で、前連結会計年度末に比べ14億20百万円減少しました。これは主に回収による受取手形及び売掛金の減少11億65百万円と、借入金返済などによる現金及び預金の減少2億87百万円によるものです。

固定資産合計は185億69百万円で、前連結会計年度末に比べ6億85百万円減少しました。これは主に当社が千葉県市川市に所有していた工場、営業所跡地の借地権を売却したことによる2億42百万円の減少と、所有株式の時価の下落などの投資その他の資産の減少3億11百万円によるものです。

流動負債合計は177億71百万円で、前連結会計年度末に比べ16億96百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金の減少と、出荷済み未検収製品の検収による売上計上に伴い前受金が減少したことによるものです。

固定負債合計は65億52百万円で、前連結会計年度末に比べ3億55百万円減少しました。これは主に長期借入金の返済と社債の償還によるものです。

純資産合計は230億58百万円で、前連結会計年度末に比べ54百万円減少しました。これは主に所有株式の時価の下落によるその他有価証券評価差額金の減少1億75百万円によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、66億40百万円と前連結会計年度末に比べ、3億15百万円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

主として売上債権の回収と仕入債務の減少、法人税等の支払いにより、営業活動の結果得られた資金は56百万円（前年同期は21億68百万円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

主として千葉県市川市に所有していた工場、営業所跡地の借地権を売却したことにより、投資活動の結果得られた資金は5億71百万円（前年同期は11億12百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

主として配当金の支払と長期借入金の返済、社債の償還による支出により、財務活動の結果使用した資金は9億72百万円（前年同期は5億64百万円の支出）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月10日に、平成25年3月期通期の連結業績予想を公表しましたが、当初想定よりも事業環境の厳しさが増したため、前回発表時の業績予想を修正いたします。なお、詳細は平成24年11月9日公表の「連結ならびに個別業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の期間に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,327	7,040
受取手形及び売掛金	※3 13,551	※3 12,386
有価証券	74	74
商品及び製品	4,457	4,637
仕掛品	1,689	1,563
原材料及び貯蔵品	1,888	2,019
その他	1,490	1,309
貸倒引当金	△245	△218
流動資産合計	30,234	28,813
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,925	3,823
機械装置及び運搬具(純額)	1,014	1,088
工具、器具及び備品(純額)	488	460
土地	9,148	9,181
リース資産(純額)	679	652
建設仮勘定	59	47
有形固定資産合計	15,315	15,254
無形固定資産		
のれん	94	48
リース資産	20	16
その他	398	135
無形固定資産合計	512	200
投資その他の資産	※2 3,426	※2 3,114
固定資産合計	19,254	18,569
資産合計	49,488	47,382

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 11,219	※3 10,373
短期借入金	2,979	2,898
1年内返済予定の長期借入金	1,084	1,048
1年内償還予定の社債	210	160
未払法人税等	548	332
賞与引当金	449	397
役員賞与引当金	55	27
受注損失引当金	15	—
製品保証引当金	16	20
その他	2,890	2,514
流動負債合計	19,468	17,771
固定負債		
社債	240	170
長期借入金	2,288	2,087
退職給付引当金	280	282
役員退職慰労引当金	207	216
資産除去債務	13	13
その他	3,877	3,781
固定負債合計	6,907	6,552
負債合計	26,375	24,324
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,028	4,028
資本剰余金	2,357	2,357
利益剰余金	16,152	16,214
自己株式	△820	△909
株主資本合計	21,718	21,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	327	151
土地再評価差額金	1,236	1,235
為替換算調整勘定	△1,520	△1,440
その他の包括利益累計額合計	42	△53
少数株主持分	1,352	1,421
純資産合計	23,112	23,058
負債純資産合計	49,488	47,382

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	19,650	19,906
売上原価	14,588	14,973
売上総利益	5,061	4,932
販売費及び一般管理費	※ 4,486	※ 4,625
営業利益	575	307
営業外収益		
受取利息	11	18
受取配当金	29	32
受取賃貸料	43	45
物品売却益	18	13
貸倒引当金戻入額	20	9
その他	56	23
営業外収益合計	181	143
営業外費用		
支払利息	53	52
賃貸費用	39	29
為替差損	68	17
その他	28	27
営業外費用合計	188	127
経常利益	567	323
特別利益		
固定資産売却益	4	668
投資有価証券売却益	—	5
収用補償金	7	—
特別利益合計	12	674
特別損失		
固定資産除売却損	13	9
投資有価証券評価損	13	35
減損損失	28	57
ゴルフ会員権評価損	0	—
工場移転費用	18	—
災害による損失	3	—
その他	0	0
特別損失合計	78	101
税金等調整前四半期純利益	501	896
法人税、住民税及び事業税	172	388
法人税等調整額	50	86
法人税等合計	222	475
少数株主損益調整前四半期純利益	278	420
少数株主利益	104	66
四半期純利益	173	353

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	278	420
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△108	△175
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	167	90
その他の包括利益合計	58	△84
四半期包括利益	337	335
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	220	258
少数株主に係る四半期包括利益	116	76

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	501	896
減価償却費	626	559
収用補償金	△7	—
移転費用	18	—
減損損失	28	57
のれん償却額	78	46
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△38	△8
賞与引当金の増減額 (△は減少)	15	△54
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△32	△28
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△16	△15
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	17	11
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	2	4
受取利息及び受取配当金	△41	△50
支払利息	53	52
関係会社株式評価損	—	0
ゴルフ会員権評価損	0	—
固定資産除売却損益 (△は益)	9	△659
投資有価証券評価損益 (△は益)	13	35
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△5
災害損失	3	—
売上債権の増減額 (△は増加)	1,462	801
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,431	△92
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,390	△920
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△14	6
その他	△1	54
小計	2,636	688
利息及び配当金の受取額	44	50
利息の支払額	△53	△54
移転費用の支払額	△18	—
災害損失の支払額	△1	△23
法人税等の支払額	△439	△605
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,168	56

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△460	△519
定期預金の払戻による収入	445	490
有形固定資産の取得による支出	△998	△291
有形固定資産の売却による収入	68	33
無形固定資産の取得による支出	△79	△49
無形固定資産の売却による収入	—	905
投資有価証券の取得による支出	△95	△10
投資有価証券の売却による収入	1	10
貸付けによる支出	—	△8
貸付金の回収による収入	6	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,112	571
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	487	△207
長期借入れによる収入	180	400
長期借入金の返済による支出	△536	△455
社債の発行による収入	200	—
社債の償還による支出	△430	△120
自己株式の取得による支出	△0	△89
自己株式の売却による収入	0	—
配当金の支払額	△293	△293
少数株主への配当金の支払額	△20	△21
その他	△152	△185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△564	△972
現金及び現金同等物に係る換算差額	34	28
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	525	△315
現金及び現金同等物の期首残高	6,004	6,956
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 6,530	※ 6,640

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,433	7,602	3,154	19,190	459	19,650	—	19,650
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	8,433	7,602	3,154	19,190	459	19,650	—	19,650
セグメント利益	345	529	58	934	99	1,033	△458	575

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、加熱プラズマ機器、ヘリウム液化機の製造・仕入・販売業が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△458百万円には、セグメント間取引消去71百万円、のれんの償却額△78百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△473百万円、棚卸資産の調整額16百万円、その他の調整額5百万円が含まれております。
- 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,587	7,251	3,581	19,420	485	19,906	—	19,906
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	8,587	7,251	3,581	19,420	485	19,906	—	19,906
セグメント利益又は損失(△)	115	487	60	662	△4	658	△351	307

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、加熱プラズマ機器、ヘリウム液化機の製造・仕入・販売業が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△351百万円には、セグメント間取引消去62百万円、のれんの償却額△46百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△482百万円、棚卸資産の調整額59百万円、その他の調整額55百万円が含まれております。
- 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(7) 重要な後発事象

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

当社の連結子会社であるKoike Aronson Brasil Assessoria De Negocios Ltda.,は、平成24年11月7日にBiondi Maquinas Dispositivos E Ferramentas Ltda. (以下Biondi)の買収を完了いたしました。

(1) 買収の目的

製造能力を持つBiondiを買収することで、ブラジルにおいて当社グループ製品の拡販をはかる

(2) 株式取得の相手の名称

個人株主2名

(3) 買収する会社の名称

Biondi Maquinas Dispositivos E Ferramentas Ltda.

(4) 買収する会社の事業内容

溶接治具等機械装置の製造・販売

(5) 買収する会社の総資産

4,139千ブラジルリアル

(6) 取得価額

2,550千米ドル

(7) 取得の時期

平成24年11月7日

(8) 取得後の持分比率

Koike Aronson Brasil Assessoria De Negocios Ltda., 80%

(9) 資金調達方法

自己資金

(10) その他

取得価額はアーンアウト条項により、平成27年5月末までの間、最大850千米ドルが増加する可能性があります。

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前年同四半期比 (%)
機械装置 (百万円)	8,356	91.4
高圧ガス (百万円)	170	99.0
報告セグメント計 (百万円)	8,526	91.6
その他 (百万円)	—	—
合計 (百万円)	8,526	91.6

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当第2四半期連結累計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
機械装置	6,874	80.8	6,100	98.6

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 受注高及び受注残高につきましては、標準機・部品等の金額を含めておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前年同四半期比 (%)
機械装置 (百万円)	8,587	101.8
高圧ガス (百万円)	7,251	95.4
溶接機材 (百万円)	3,581	113.5
報告セグメント計 (百万円)	19,420	101.2
その他 (百万円)	485	105.5
合計 (百万円)	19,906	101.3

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。